第19回　いしのまき本の教室

# 日常からものがたりをつくってみる

震災、パンデミック、戦争、社会が目まぐるしく変化するなか、自分が当事者になった時どのように人に語るか。その時語り手と聞き手の間に何が生まれるのか。「声の地層」の著書瀬尾夏美さんと語りの活動をしている清水葉月さんとともに考えます。

2024年
**2月17日(土)19時-**

会場
**石巻まちの本棚**
宮城県石巻市中央2-3-16 たん書房ビル1F

ゲスト
**瀬尾夏美**（アーティスト）

聞き手
**清水葉月**（Smart Supply Vision）

主催　石巻 まちの本棚、一箱本送り隊、ISHINOMAKI2.0

**震災、パンデミック、戦争、自然災害など我々を取り巻く語るべき状況は激しく変化しています。語ることや聞くことの重要性が大きく増すなか「声の地層 災禍と痛みを語ること」の著者瀬尾夏美さんをむかえて本の教室を開催します。聞き手は自身の被災体験から語りの活動を続ける清水葉月さん。「語る」ということや「聞く」ことの先にどのような変化が訪れるのか、一緒に考えていきます。**
**後半は聞くことからものがたりをつくるをテーマにワークショップを開催します。**

**声の地層 災禍と痛みを語ること**
**著者：瀬尾夏美**
**生きのびるブックス**
四六判並製 288 ページ。　定価 2,310 円（税込）

**瀬尾夏美**（せお なつみ）

1988 年東京都生まれ。土地の人びとの言葉と風景の記録を考えながら、絵や文章をつくっている。岩手県陸前高田市での対話の場づくりや作品制作を経て、現在は東京を拠点に災禍の記録をリサーチしながら、"語れなさ" をテーマに旅をし、物語を書いている。著書に『あわいゆくころ　陸前高田、震災後を生きる』『声の地層　災禍と痛みを語ること』など。

**清水葉月**（しみず はづき）

1993 年福島県浪江町生まれ。高校 2 年生の時に東日本大震災を経験し、関東へ避難。大学卒業後に宮城県女川町・石巻市で放課後の学習支援や子どもの声で運営する児童館職員など子ども支援の活動に携わる。現在は（一社）Smart Supply Vision にて、子ども若者の声を届ける" 未来をつくる声を届けるプロジェクト" を行う。震災を語る若者たちのコミュニティ発起人。

## 第 19 回　いしのまき本の教室
## 「日常からものがたりをつくってみる」

参加費：1,000 円
日時：2024 年 2 月 17 日（土）19 時〜21 時
（開場 18 時半）
定員：15 名（事前予約制）

ゲスト　瀬尾夏美（アーティスト）
聞き手　清水葉月（Smart Supply Vision）
会場：石巻まちの本棚

**＜お申し込み方法＞**
**件名「2/17 本の教室」**
**②お名前**
**③人数**
**④連絡先（電話・メールアドレス）**
**を下記メールアドレスまでおしらせください。**
**メールアドレス　bookishinomaki@gmail.com**

**オンライン配信も実施します。**
**詳しくは石巻まちの本棚 HP まで**

**石巻まちの本棚 HP**

石巻 まちの本棚
ISHINOMAKI BOOKSHELF

**この事業は、一部赤い羽根 共同募金の助成を受けて実施しています。**